

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1872000409		
法人名	社会福祉法人 敬老会		
事業所名	アクティブケア一宮崎(だんらん)		
所在地	福井県丹生郡越前町小曾原33-34		
自己評価作成日	令和 4年8月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 4年 9月 7日 (水)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内の広い庭園や各ユニットから眺められる景色などから四季折々の風景が楽しめる。入居者様の思いを尊重し個別ケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには越前陶芸村があり、道を挟んだところに国の重要文化財に指定されている「相ノ木邸」がある。また、事業所の前には、2002年4月に開所した介護老人福祉施設「シルバー・ハイツ宮崎」があり、小曾原地区の高齢者福祉を担っている。事業所の木造りの門から玄関まで、広く優雅な日本庭園がある。平屋造りの内装は廊下が広く、左右の壁には様々な作品を飾り、室内を歩く楽しみになっている。各居室にウッドデッキを設置し、他の居室に行き来することができる。居室は、利用者が好みの写真や作品等を飾り、家で使っていたチェストや机、椅子、テレビを使いやすく配置し、居心地が良い空間となっている。できる限り家庭に近い雰囲気の中で、介護と医療の有機的な連携により、経験豊かなスタッフが見守りながら、その人らしい穏やかな生活が送れるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針目標・理念をスタッフルーム、ホール、玄関に掲げ、また介護介護ファイルに貼るなどし、常に目につくようにし意識できるよう心がけている。	法人理念と方針・目標を玄関、共用空間、事務所等に掲げている。昨年に引き続き、年度目標として「スピーチロック0への取り組み」を継続している。個々の職員は、法人の方針・目標を基本に、各自の年度目標を作成している。	昨年の外部評価で、「理念等をホームページやパンフレット・機関誌に記載するよう期待する」とした結果、機関誌の1月号には掲載したが、ホームページや機関誌へ常時掲載することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大防止のため、交流できる行事が中止になっている。	コロナ禍の影響で、事業所独自の「認知症カフェ・はなみずき」や保育園、赤十字奉仕団等との交流や、特に理事長が地域住民との交流の場と考え造成した「花の公園」での交流を自粛している。利用者のストレスも感じられるため、今後は交流できるよう模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験、認知症カフェ等すべて中止になっているため行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を計画しているが、コロナ感染症拡大予防のため、中止が続いており、書類のみ各関係者に送付している。	奇数月第3木曜日の14時から、家族、3地区の民生委員、自治会区長、町職員、地域包括支援センター職員、町社協職員が参加し開催しているが、コロナ禍の影響により文書配布、意見聴取が続いている。	運営推進会議は、地域との交流を図る上で重要な会議であり、その資料や議事録は全家族へ配布することが望ましい。同時に、玄関等に外部評価結果と共に、ファイル化して設置することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メール、電話等で直接担当者に連絡をとり、意見助言をいただいている。	特に定期的に会議等は開催していないが、運営推進会議時や必要に応じて日常的に相談、報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設け、三ヶ月に1回委員会を実施。法人内研修を年2回行い身体拘束について学んでいる。	年間の内部研修計画表を作成し、すこやかシルバー病院での外部研修を実施している。「身体的拘束等の適正化のための指針」を作成し、身体拘束適正化検討委員会の3か月毎の開催等々について職員会議で報告している。「スピーチロック0」は、昨年に引き続いてのテーマであり、職員アンケートを行い改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人にて虐待合資委員会を設け、法人内研修にて虐待について学び防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修にて権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時などご家族からの不安、疑問をお聞きしている。管理者が説明し、理解、納得をしていただけるようにしている。改訂時には、文面・口頭にて説明し承諾書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人参加のカンファレンスは、緊急時以外行っていない。電話にて近況をお伝えし、要望や、意見をうかがっている。年1回お客様アンケートを実施している。	家族会はないが、玄関先に意見箱を設置したり、毎年「お客様(家族)アンケート」を実施したりして意見を回収している。窓越しやLINEでの面会時でも意見を聞き、運営に活かしている。機関誌、HP、毎月の文書発送等で情報提供を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善提案書を活用し、意見や提案を聞き入れ業務に生かしている。年3回面談を行い、普段から話を聞く姿勢をとっている。	人事考課制度は導入していないが、1年間の「スキルアップシート(自己分析表)」を作成し、年3回の面談、気づきの申し送り書、業務改善提案書の提出等を通して意見交換ができるシステムを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の希望を可能な限り聞き入れ、実施したいケア内容など取り入れられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要かつ、希望する研修、資格取得に向けての受講を推奨したり、施設外での研修を案内し受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しているが、年3回あった連絡会は新型コロナウイルス感染予防の為に行われていない。リモートを利用した講演等には参加出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談し、不安や心配事など聞くようにしている。体験入所もできる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にて不安な心配事をお聞きし、ご要望なども聞きながらより良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネジャー等から情報を聞き連携をとり、安心してサービスが受けられる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事や昔されてきた事など把握し、提供できるように職員で努めている。役割を持って頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診以外の受診は家人に協力して頂いている。大がかりな外出等は家人に付き添いをお願いしているが、コロナ関係で外出は出来ていない。本人が希望している物品等は家人に用意して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、外出自粛が続いており支援ができていない。ガラス越し面会を実施しているが、家人限定になっている。	入居前のカンファレンス、契約時のフェイスシート等と共に、「ユニット別申し送りノート」を活用し、人や場所との関係把握ができるシステムを整えている。窓越しやLINEを活用した面会で、家族や地域住民と交流している。家族と美容室へ出かけた時、年賀状等が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置や、レク時の座席など気の合う方や会話が出来る方などを配っている。おとなしい方や一人になりたい方などは、職員が間に入り関りが持てるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、相談事があれば、支援・協力させてさせて頂けることをお知らせしている。家人に会ったときは様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望、要望があった場合、また普段の様子から思いをくみ取り、職員間で情報を共有し、くみ取るよう努めている。	利用者の思いや意向を毎日の会話から汲み取ると共に、状況によっては家族に相談したり意見交換したりしている。職員は1名から3名を担当し、朝夕の申し送りや毎月のミーティング等での情報を共有し記録している。外出はできないが、利用者の負担、ストレスが緩和できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族、本人から情報収集を行い生活歴やなじみの暮らしを把握に努めている。また居宅ケアマネージャーと連携しサービスの利用経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の行動や身体の状態をしっかりと観察し、職員間の情報を共有しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で気づいた事などカンファレンス、申し送り等を行いながら現状に合った介護計画を作成している。	毎月「〇×方式システム」の記録を作成し、3か月毎にケア会議を開催し、年4回ケアプランを作成するほか、現状に即してプラン変更も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や申し送りの記録、モニタリングなどから職員間で情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時対応は、本人や家人の意向を聞き、柔軟に対応している。状況が変わっても、その時々生まれるニーズにも対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染症対策の為、慰問は行ってない。散髪は地元の美容院に来て頂き、生け花は地元の方に講師を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームに入所の方は、法人内病院がかかりつけ医となるが、希望で入所前のかかりつけ医を希望すれば希望を聞き入れている。	1名がかかりつけ医を利用し、利用者情報を記載した書面を渡し、家族が同行している。その他の利用者は協力医を受診している。定期往診は月2回(看護師も毎月1回)実施しており、電話相談も常時可能で、安心した医療システムを整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と介護士が日々の状態を把握し、状態によって受診・往診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療関係者と情報提供を行い情報を共有している。管理者、または看護師が退院後の生活について医療関係者、地域連携のスタッフと話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、看取りについて説明している。段階的に状況を家人に説明し意向を聞いて、医療機関との連携を図りその都度意思を確認しながら支援できるようにしている。	看取りを行うシステムを整え、5月に1名の看取りを行った。入居時に、家族の希望で看取り支援が行えることや、関連の病院・介護老人保健施設へ移行できることを説明している。「看取りに関する指針、具体的な方法」を作成し、法人全体で研修を開催し、職員の技術向上、不安の緩和に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修にて権利擁護について学ぶ機会を設けている。緊急救命講習を年1回受講。各ユニットに応急処置のマニュアルを置いてある。事故発生時の処置・対応・連絡網を掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練・年1回原子力災害訓練を行っている。防火防災委員会を設け、備蓄等災害時の準備を行っている。地域住民との避難訓練を行いたいのがコロナ禍の為行っていない。	年2回昼・夜間の避難と原子力訓練を特別養護老人ホームの職員の参加・協力により実施し、防災マニュアルを作成している。事業所内に越前町洪水ハザードマップ、職員緊急連絡網・夜間緊急時連絡表を掲示し、防災備蓄用品リスト(3日分)を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束適正化委員会にてスピーチロックについて取り組み、職員の意識向上を図っている。	理念に「笑顔、優しい言葉、親切、思いやり、個性」を謳っている。「身体拘束適正化／スピーチロック」について、職員アンケートと共に利用者からの意見も聴取し、人格の尊重とプライバシー確保の意識向上を図っている。個人情報、事務所内のドア付き棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方が自己決定できるよう、会話、関わりの時間を設け、うまく伝えられない方には表情や態度を見て思いが解るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、入居者の状態や希望にあわせ無理強いすることなく、居室やホールで過ごしていただいたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行きたい方はお連れしている。入浴準備が出来る方にはして頂き、職員がしている場合は同じ服ばかりにならないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事として入居者に作っていただいたり、刺身・お寿司など注文し楽しみをもてる機会を設けている。準備・片付けなど出来る範囲でしていただいている。	朝・昼食は、職員が買い出したものを調理し、夕食は、食材を仕入れて調理している。利用者には調理や後片付けを手伝ってもらっている。家族から食材の提供があり、庭のプランターで野菜を栽培している。お寿司等の行事食も大きな楽しみになっている。箸、茶碗、湯呑は個人の物を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に水分補給の時間を設け水分摂取に努めている。目盛り付きコップを使用し水分摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、不十分なところは職員が介助している。夜間は入れ歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立されている方以外は、定時のトイレ誘導を行っている。尿量や排泄頻度を把握し、トイレ誘導の回数、パット類の検・変更を行っている。	トイレの横に排泄パターン表があり、業務日誌に記録している。車椅子利用者も介助によりトイレを使用し、2ユニット合計で、夜間のオムツ使用は2名、ポータブルトイレ使用は2名、夜間センサー使用は7名である。その他の利用者は紙・布パンツを使用し、日中はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を取り入れ体を動かすようにしている。水分摂取を促し、食事のバランスを図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴していただいている。入浴日は事前に決められているので、曜日、時間帯は決められているが、一番に入りたい方、入浴時間が長い方など入居者の好みに合わせて時間帯等決めている。	日曜日以外は毎日入浴が可能で、基本的には午前中に入浴しているが、状況により午後も入浴可能である。だんらんユニットのみで入浴剤を使用している。入浴担当職員は、前日までに衣服を準備し、入浴から誘導までを一人で行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転等ならないよう生活のリズムを整え夜間良眠できるよう支援している。体調等観察し無理のないよう休んでいただく等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を全職員が把握し、日々の症状を確認し、医師に相談、受診を行い薬の管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、洗濯など出来ることを把握し、役割を持っていただいている。外出自粛中なので、通販を利用し買い物を楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って外出することは難しい。行事として外出することや、家人付き添いをお願いする行事があるが、コロナ感染症予防のため、現在行えていない。	コロナ禍のため外出しにくい状況であるが、敷地内の日本庭園を散策することで四季折々の変化を楽しむことができ、この上ない優雅な環境である。周囲を山に囲まれた地区で、四季のうつろいを感じ、気分転換が容易にできる環境である。体制が整えばドライブに出かける用意がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ホームに現金を置かない、預からないことになっている。個人の買い物は家人に頼んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人に連絡を取りたい方にはホームの電話を使用していただいている。通話が困難な方は職員が変わって伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下に季節に合わせた作品等を飾っている。日差しの強い窓には遮光カーテンをつけており、ホール、各居室に湿・温度計を置き調整している。	平屋造りの木造建築であり、門扉から入口に続く景色は、優雅な日本庭園の様相である。共用空間や各居室からウッドデッキに出ることができる。共用空間にはカウンターで仕切った調理室があり、採光も良い。四季に応じた作品や写真を掲示し、幅広い廊下の左右の壁にも、利用者が心落ち着く作品を掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外に自由に座れる椅子やソファを置き、自由に座っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具類を持ち込んでいただいている。家人の写真やご自身の作品を飾っている。	ベッドを置いても十二分に広い居室に、エアコン、空気清浄機、洗面所、1間幅の押し入れを設置している。利用者の希望により、テレビやタンス、位牌、机、椅子等を配置し、個性的で居心地のよい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレが解るように目印をつけたり、車椅子・歩行器での移動がしやすいよう動線の確保、スペースを設けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1872000409		
法人名	社会福祉法人 敬老会		
事業所名	アクティブケア一宮崎(ひだまり)		
所在地	福井県丹生郡越前町小曾原33-34		
自己評価作成日	令和 4年 8月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 4年 9月 7日 (水)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内の広い庭園や各ユニットから眺められる景色などから四季折々の風景が楽しめる。入居者様の思いを尊重し個別ケアに取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

だんらんと同じ。
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針目標・理念をスタッフルーム、ホール、玄関に掲げ、また介護介護ファイルに貼るなどし、常に目につくようにし意識できるよう心がけている。	だんらんと同じ。	だんらんと同じ。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大防止のため、交流できる行事が中止になっている。	だんらんと同じ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験、認知症カフェ等すべて中止になっているため行えていない。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を計画しているが、コロナ感染症拡大予防のため、中止が続いており、書類のみ各関係者に送付している。	だんらんと同じ。	だんらんと同じ。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メール、電話等で直接担当者に連絡をとり、意見助言をいただいている。	だんらんと同じ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設け、三ヶ月に1回委員会を実施。法人内研修を年2回行い身体拘束について学んでいる。	だんらんと同じ。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人にて虐待合資委員会を設け、法人内研修にて虐待について学び防止に努めている。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修にて権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時などご家族からの不安、疑問をお聞きしている。管理者が説明し、理解、納得をしていただけるようにしている。改訂時には、文面・口頭にて説明し承諾書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人参加のカンファレンスは、緊急時以外行えていない。電話にて近況をお伝えし、要望や、意見をうかがっている。年1回お客様アンケートを実施している。	だんらんと同じ。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善提案書を活用し、意見や提案を聞き入れ業務に生かしている。年3回面談を行い、普段から話を聞く姿勢をとっている。	だんらんと同じ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の希望を可能な限り聞き入れ、実施したいケア内容など取り入れられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要かつ、希望する研修、資格取得に向けての受講を推奨したり、施設外での研修を案内し受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しているが、年3回あった連絡会は新型コロナウイルス感染予防の為に行われていない。リモートを利用した講演等には参加出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談し、不安や心配事など聞くようにしている。体験入所もできる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にて不安な心配事をお聞きし、ご要望なども聞きながらより良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネジャー等から情報を聞き連携をとり、安心してサービスが受けれる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事や昔されてきた事など把握し、提供できるように職員で努めている。役割を持って頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診以外の受診は家人に協力して頂いている。大がかりな外出等は家人に付き添いをお願いしているが、コロナ関係で外出は出来ていない。本人が希望している物品等は家人に用意して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、外出自粛が続いており支援ができていない。ガラス越し面会を実施しているが、家人限定になっている。	だんらんと同じ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置や、レク時の座席など気の合う方や会話が出来る方などを配っている。おとなしい方や一人になりたい方などは、職員が間に入り関りが持てるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、相談事があれば、支援・協力させてさせて頂けることをお知らせしている。家人に会ったときは様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望、要望があった場合、また普段の様子から思いをくみ取り、職員間で情報を共有し、くみ取るよう努めている。	だんらんと同じ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族、本人から情報収集を行い生活歴やなじみの暮らしを把握に努めている。また居宅ケアマネージャーと連携しサービスの利用経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の行動や身体の状態をしっかりと観察し、職員間の情報を共有しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で気づいた事などカンファレンス、申し送り等を行いながら現状に合った介護計画を作成している。	だんらんと同じ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や申し送りの記録、モニタリングなどから職員間で情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時対応は、本人や家人の意向を聞き、柔軟に対応している。状況が変わっても、その時々生まれるニーズにも対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染症対策の為、慰問は行ってない。散髪は地元の美容院に来て頂き、生け花は地元の方に講師を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームに入所の方は、法人内病院がかかりつけ医となるが、希望で入所前のかかりつけ医を希望すれば希望を聞き入れている。	だんらんと同じ。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と介護士が日々の状態を把握し、状態によって受診・往診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療関係者と情報提供を行い情報を共有している。管理者、または看護師が退院後の生活について医療関係者、地域連携のスタッフと話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、看取りについて説明している。段階的に状況を家人に説明し意向を聞いて、医療機関との連携を図りその都度意思を確認しながら支援できるようにしている。	だんらんと同じ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修にて権利擁護について学ぶ機会を設けている。緊急救命講習を年1回受講。各ユニットに応急処置のマニュアルを置いてある。事故発生時の処置・対応・連絡網を掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練・年1回原子力災害訓練を行っている。防火防災委員会を設け、備蓄等災害時の準備を行っている。地域住民との避難訓練を行いたいがコロナ禍の為行えていない。	だんらんと同じ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束適正化委員会にてスピーチロックについて取り組み、職員の意識向上を図っている。	だんらんと同じ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方が自己決定できるよう、会話、関わりの時間を設け、うまく伝えられない方には表情や態度を見て思いが解るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、入居者の状態や希望にあわせ無理強いすることなく、居室やホールで過ごしていただいたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行きたい方はお連れしている。入浴準備は、職員がしているが同じ服ばかりにならないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事として入居者に作っていただいたり、刺身・お寿司など注文し楽しみをもてる機会を設けている。準備・片付けなど出来る範囲でしていただいている。	だんらんと同じ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて、栄養補助食品の提供、ミキサー食を提供し、栄養・食事摂取量の確保に努めている。食事以外に水分補給の時間を設け水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、不十分なところは職員が介助している。夜間は入れ歯洗浄剤を使用している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立されている方以外は、定時のトイレ誘導を行っている。尿量や排泄頻度を把握し、トイレ誘導の回数、パット類の検討・変更を行っている。	だんらんと同じ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を取り入れ体を動かすようにしている。水分摂取を促し、食事のバランスを図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴していただいている。入浴日は事前に決められているので、曜日、時間帯は決められているが、一番に入りたい方、入浴時間が長い方など入居者の好みに合わせて時間帯等決めている。	だんらんと同じ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転等ならないよう生活のリズムを整え夜間良眠できるよう支援している。体調等観察し無理のないよう休んでいただく等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を全職員が把握し、日々の症状を確認し、医師に相談、受診を行い薬の管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、洗濯など出来ることを把握し、役割を持っていただいている。外出自粛中なので、通販を利用し買い物を楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って外出することは難しい。行事として外出することや、家人付き添いをお願いする行事があるが、コロナ感染症予防のため、現在行えていない。	だんらんと同じ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ホームに現金を置かない、預からないことになっている。個人の買い物は家人に頼んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方には、通話のお手伝いをしたり、家人に連絡を取りたい方にはホームの電話を使用していただいている。通話が困難な方は職員が変わって伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下に季節に合わせた作品等を飾っている。日差しの強い窓には遮光カーテンをつけており、ホール、各居室に湿・温度計を置き調整している。	だんらんと同じ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き、ホール以外でも気の合う方と過ごせる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具類を持ち込んでいただいている。家人の写真やご自身の作品を飾っている。	だんらんと同じ。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレが解るように目印をつけたり、車椅子・歩行器での移動がしやすいよう動線の確保、スペースを設けている。		